

2019年3月期 決算説明会

2019年5月21日

 **古河機械金属株式会社**

* 本資料の予想につきましては、説明会開催日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

決算および予想(連結)

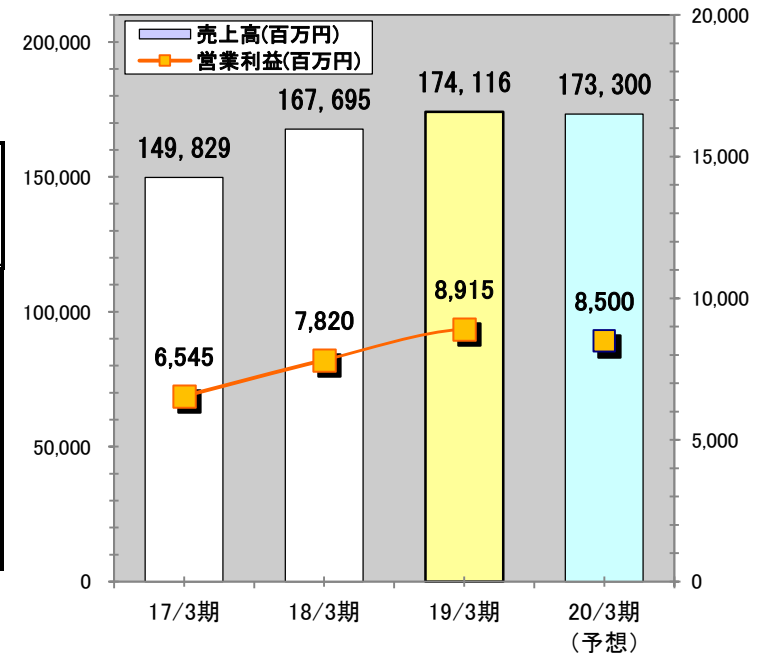
【業績】

(単位: 百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	対前年同期 増減	2020年3月期 予想	対19/3期 増減
売上高	149,829	167,695	174,116	6,421	173,300	△816
営業利益	6,545	7,820	8,915	1,094	8,500	△415
営業利益率	4.4%	4.7%	5.1%	0.4%	4.9%	-0.2%
経常利益	7,202	8,105	8,235	130	7,900	△335
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,254	4,774	4,654	△119	5,500	845

【財務状況】

		2018年3月期	2019年3月期	対2018/3期 増減
総資産	百万円	222,211	215,368	△6,843
純資産	百万円	87,086	80,447	△6,639
自己資本比率	%	38.3	36.3	△2.0
1株当たり純資産	円	2,104.07	1,978.09	△126.0
ROE	%	5.9	5.7	△0.2



部門別業績(連結)

〔売上高〕

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	対2018/3期増減
機械事業	73,453	77,580	4,127
産業機械部門	15,871	17,971	2,099
ロックドリル部門	30,199	30,372	172
ユニック部門	27,381	29,237	1,855
素材事業	89,987	92,722	2,735
金属部門	77,334	80,067	2,733
電子部門	6,307	6,527	219
化成品部門	6,344	6,127	△217
不動産事業	3,338	2,999	△339
その他	916	814	△102
合計	167,695	174,116	6,421

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	対2018/3期増減
機械事業	5,083	6,567	1,484
産業機械部門	1,005	2,088	1,083
ロックドリル部門	1,782	1,689	△92
ユニック部門	2,295	2,789	493
素材事業	1,648	1,396	△252
金属部門	867	581	△285
電子部門	330	407	77
化成品部門	451	406	△44
不動産事業	1,339	1,163	△176
その他	△196	△147	49
調整額	△55	△64	△9
合計	7,820	8,915	1,094

		2019年3月期	対2018/3期増減
銅	価	6,341 \$/トン	△103
為	替	110.9円/\$	0.1

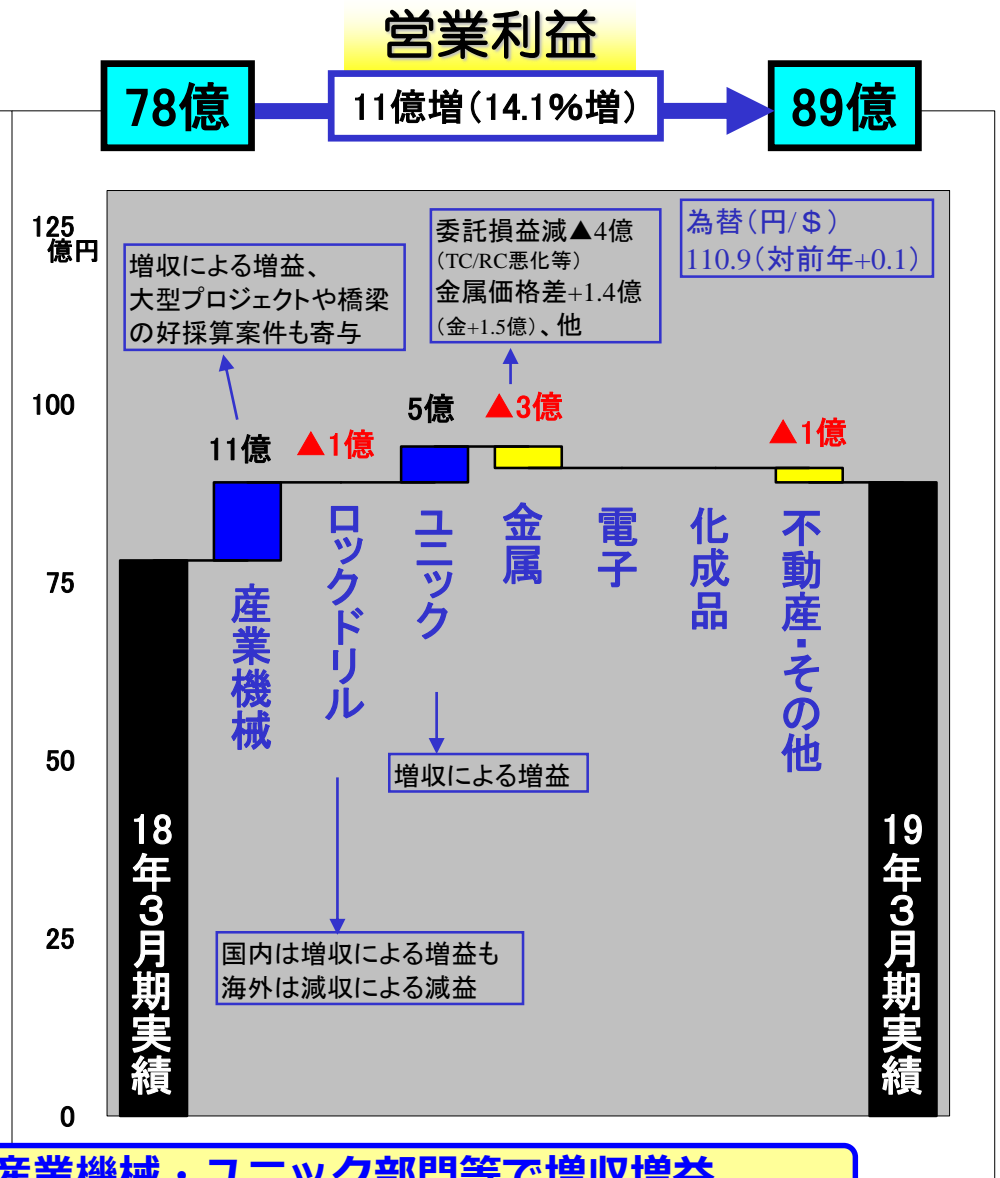
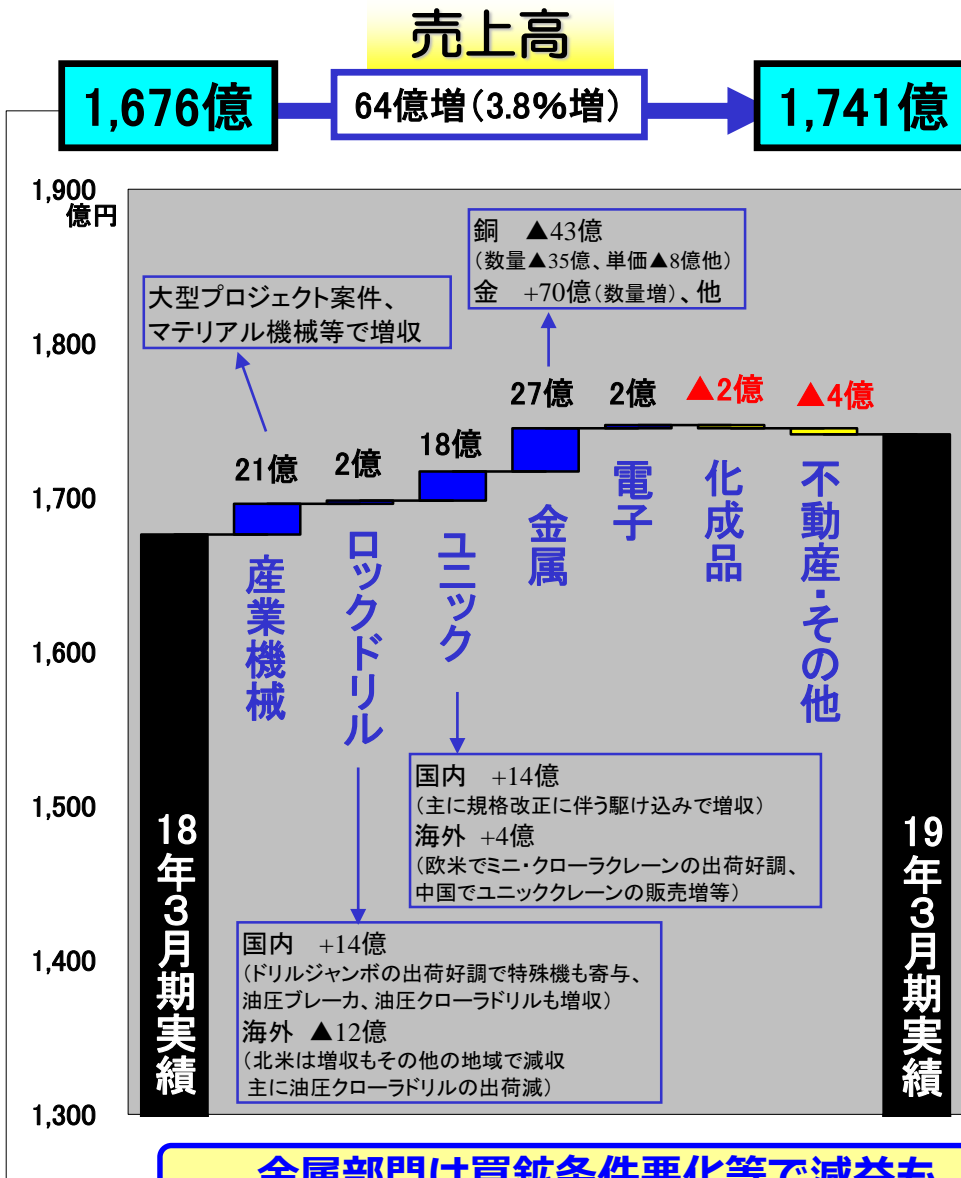
産業機械部門受注残

	2019年3月期 連結会計年度末	対前年同期増減
受注残	139億円	24億円

金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2019年3月期 連結会計年度	対前年同期増減
営業利益	5.8億円	△2.8億円
内価格影響分	2.6億円	1.4億円
銅	(2.0億円)	(0.0億円)
金	(0.9億円)	(1.5億円)

部門別業績の増減(連結) / 対前年同期



金属部門は買鉱条件悪化等で減益も、産業機械・ユニック部門等で増収増益。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	対2018/3期増減
売上高	167,695	174,116	6,421
売上原価	142,426	147,674	5,247
(売上総利益)	25,268	26,441	1,173
販売費及び一般管理費	17,447	17,526	78
営業利益	7,820	8,915	1,094
営業外収益	1,727	1,315	△411
受取配当金	620	730	110
受取利息	183	221	37
持分法による投資利益	366	—	△366
その他	556	364	△192
営業外費用	1,442	1,995	552
支払利息	581	576	△4
休鉱山管理費	607	672	65
金融諸費	73	279	206
その他	180	466	285
経常利益	8,105	8,235	130
特別利益	33	481	448
固定資産売却益	12	223	211
投資有価証券売却益	20	214	193
その他	—	43	43
特別損失	1,543	1,714	170
減損損失	141	1,609	1,468
テナント退去補償関連費用	1,041	—	△1,041
その他	360	104	△255
税金等調整前当期純利益	6,594	7,003	408
法人税、住民税及び事業税	1,154	1,665	510
法人税等調整額	512	484	△27
当期純利益	4,927	4,852	△74
非支配株主に帰属する当期純利益	153	198	45
親会社株主に帰属する当期純利益	4,774	4,654	△119

出資する鉱山会社、製錬会社の
 損益悪化による
 持分法投資損失1億50百万円を
 計上

古河大阪ビル閉館に伴い
 帳簿価格の全額を減額し
 減損損失15億61百万円を計上

連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	2018年3月期	2019年3月期	対2018/3期増減
資産の部			
流動資産	87,845	87,441	△404
固定資産	134,366	127,926	△6,439
有形固定資産	88,965	88,289	△676
無形固定資産	227	257	30
投資その他の資産	45,172	39,379	△5,792
資産合計	222,211	215,368	△6,843
負債の部			
流動負債	79,322	60,376	△18,945
固定負債	55,802	74,544	18,741
負債合計	135,124	134,920	△203
純資産の部			
株主資本	66,714	68,824	2,109
資本金	28,208	28,208	—
利益剰余金	38,573	41,892	3,318
自己株式	△67	△1,276	△1,208
その他の包括利益累計額	18,297	9,392	△8,905
非支配株主持分	2,074	2,230	155
純資産合計	87,086	80,447	△6,639
負債・純資産合計	222,211	215,368	△6,843

株価下落による投資有価証券の減少

自己株式の取得による減少

株価下落による
その他有価証券評価差額金の減少等

■有利子負債

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	対2018年3月期 増減
短期	9,225	9,738	512
長期	64,086	62,859	△1,227
有利子負債合計	73,311	72,597	△714

2020年3月期業績予想(連結)

【業績予想】

(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 予想	対2019/3期増減
売上高	174,116	173,300	△816
営業利益	8,915	8,500	△415
経常利益	8,235	7,900	△335
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,654	5,500	845

持分法投資損益について

2019年3月期 ▲150百万円計上
2020年3月期 +100百万円見込む
(主に、製錬会社の定修がなく採算改善を見込む)

【前提条件】

	2019年3月期	2020年3月期 予想	対2019/3期増減
銅 価	6,341 \$/ト	6,600 \$/ト	259 \$/ト
為 替	110.9円/\$	110.0円/\$	△0.9円/\$

為替感応度について

1円の円安で年間約1億円の営業利益増

- ・機械事業(主にロックドリル)で約60百万円増
- ・金属部門で約40百万円増

【売上高】

(単位:百万円)

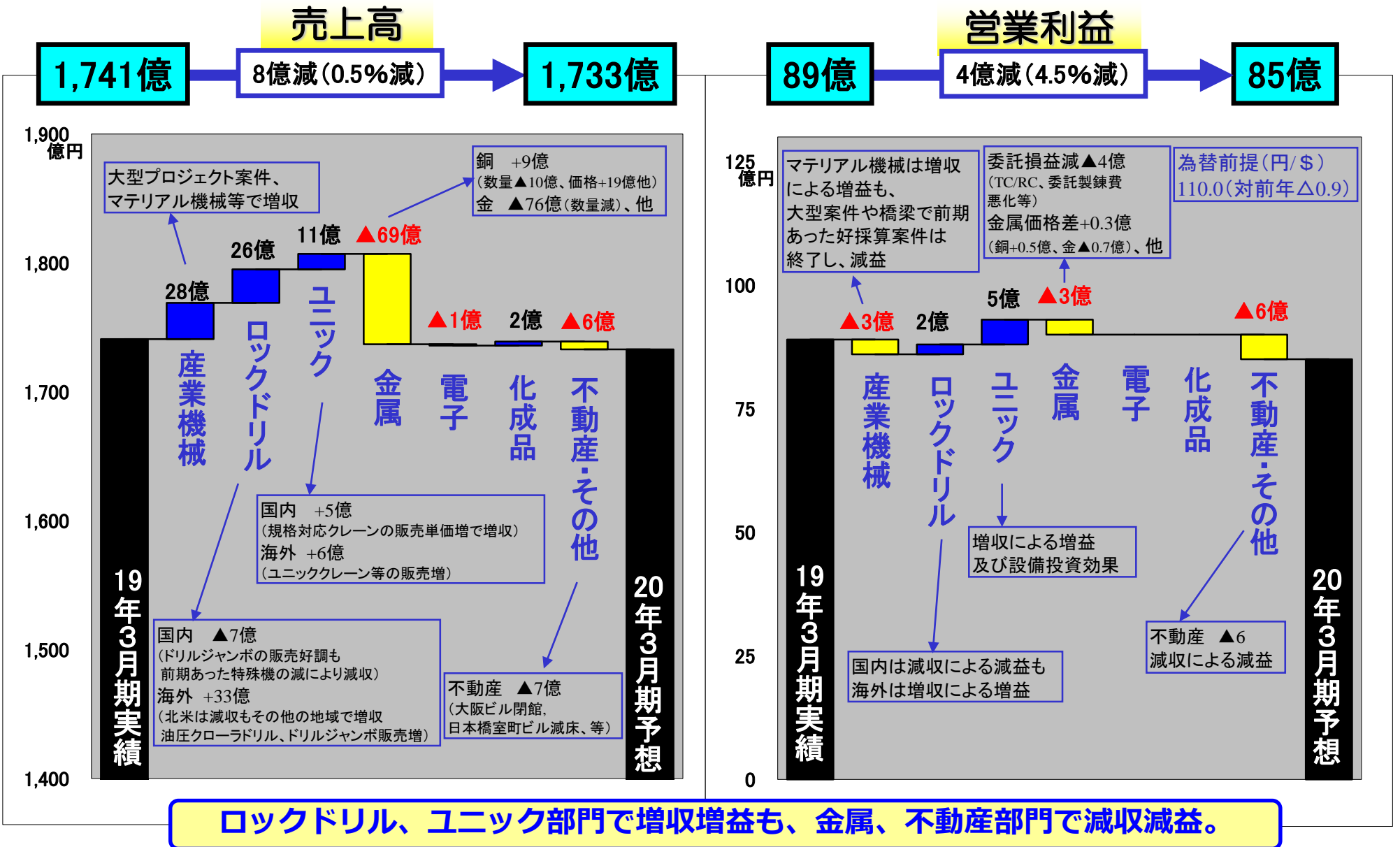
	2019年3月期	2020年3月期 予想	対2019/3期増減
機械事業	77,580	84,200	6,619
産業機械部門	17,971	20,800	2,828
ロックドリル部門	30,372	33,000	2,627
ユニック部門	29,237	30,400	1,162
素材事業	92,722	85,900	△6,822
金属部門	80,067	73,100	△6,967
電子部門	6,527	6,400	△127
化成品部門	6,127	6,400	272
不動産事業	2,999	2,300	△699
その他	814	900	85
合計	174,116	173,300	△816

【営業利益】

(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 予想	対2019/3期増減
機械事業	6,567	7,000	432
産業機械部門	2,088	1,800	△288
ロックドリル部門	1,689	1,900	210
ユニック部門	2,789	3,300	510
素材事業	1,396	1,100	△296
金属部門	581	300	△281
電子部門	407	350	△57
化成品部門	406	450	43
不動産事業	1,163	550	△613
その他	△147	△80	67
調整額	△64	△70	△5
合計	8,915	8,500	△415

2020年3月期部門別業績予想の増減/ 対前年同期



設備投資・減価償却費・研究開発費の状況(連結)

【設備投資の状況(連結)】

(単位:百万円)

設備投資額	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 予想
機械事業	4,327	4,215	4,421	4,700
産業機械部門	207	358	269	300
ロックドリル部門	595	535	2,386	3,000
ユニック部門	3,524	3,321	1,766	1,400
素材事業	412	301	376	1,400
その他	685	505	645	900
合計	5,424	5,021	5,442	7,000

高崎吉井工場(吉井)の
設備投資 約68億円
(2017年度から5年間)

佐倉工場の
設備投資 約87億円
(2016年度から4年間)

【減価償却費の状況(連結)】

減価償却費	3,137	3,260	3,473	3,600
-------	-------	-------	-------	-------

【研究開発費の状況(連結)】

研究開発費	2,464	2,292	1,504	1,500
-------	-------	-------	-------	-------

金属製品・為替・従業員の状況(連結)

【金属製品・為替の状況(連結)】

		2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 予想
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	233.8	292.3	287.6	299.4
	\$/トン	5,154	6,444	6,341	6,600
円相場 対米ドル平均(円/\$)		108.42	110.85	110.91	110.00
《古河メタルリソース㈱生産販売》		2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 予想
銅 生産量(t)		84,062	88,004	81,346	78,390
銅 販売量(t)		91,294	90,103	85,146	83,760

【従業員の状況(連結)】

	2017年3月末	2018年3月末	2019年3月末	対2018/3末増減
連結人員(名)	2,616	2,690	2,757	67

補足資料 業績推移

〔連結業績〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期(予想)
売上高	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,116	173,300
営業利益	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	8,915	8,500
経常利益	12,940	993	111	1,231	1,268	2,763	6,150	6,603	6,227	7,202	8,105	8,235	7,900
親会社株主に帰属する当期純損益	8,595	△5,917	585	563	△1,659	2,976	3,976	9,793	5,056	4,254	4,774	4,654	5,500

過去の部門別実績と業績予想

〔売上高〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期(予想)
機械事業	75,841	62,639	44,313	47,025	53,198	56,852	71,111	75,990	72,232	66,803	73,453	77,580	84,200
産業機械部門	17,331	15,836	12,783	10,655	12,949	12,894	18,527	16,712	14,926	14,041	15,871	17,971	20,800
ロックドリル部	37,497	29,427	20,386	23,880	24,143	23,305	26,842	30,910	30,076	26,979	30,199	30,372	33,000
ユニック部門	21,012	17,375	11,142	12,490	16,105	20,651	25,741	28,367	27,229	25,782	27,381	29,237	30,400
素材事業	112,795	80,174	82,126	92,202	77,961	88,024	90,161	93,269	85,642	78,968	89,987	92,722	85,900
金属部門	97,519	68,786	71,132	79,979	68,114	77,944	78,684	81,513	74,192	67,853	77,334	80,067	73,100
電子部門	8,751	5,568	5,969	7,147	4,615	4,987	5,381	5,743	5,477	5,816	6,307	6,527	6,400
化成品部門	6,525	5,820	5,025	5,076	5,187	5,093	6,096	6,013	5,973	5,298	6,344	6,127	6,400
不動産事業	2,758	2,386	2,043	1,577	1,233	1,058	1,013	2,535	3,045	3,074	3,338	2,999	2,300
その他	1,294	1,204	854	785	766	753	739	747	876	983	916	814	900
塗料部門(※1)	—	—	3,692	15,040	14,874	15,078	—	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	20,735	15,452	9,893	9,004	9,576	3,770	—	—	—	—	—	—	—
合計	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,116	173,300

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期(予想)
機械事業	6,837	1,733	△3,022	△566	1,970	2,923	5,333	6,551	5,882	3,580	5,083	6,567	7,000
産業機械部門	837	767	433	△29	708	778	1,851	1,711	1,037	104	1,005	2,088	1,800
ロックドリル部	3,702	255	△2,584	△350	333	△67	341	1,225	2,217	897	1,782	1,689	1,900
ユニック部門	2,297	710	△870	△186	928	2,212	3,141	3,614	2,627	2,578	2,295	2,789	3,300
素材事業	7,660	228	3,985	3,042	325	324	1,695	1,768	983	1,870	1,648	1,396	1,100
金属部門	6,206	23	3,224	1,494	308	282	1,503	1,449	1,154	1,738	867	581	300
電子部門	984	4	657	1,279	△234	△262	△123	52	△368	17	330	407	350
化成品部門	470	201	104	269	251	304	315	267	197	114	451	406	450
不動産事業	749	706	1,128	635	356	219	△43	776	1,276	1,265	1,339	1,163	550
その他	△228	△304	△376	△92	△93	△63	△60	△130	△72	△126	△196	△147	△80
塗料部門(※1)	—	—	△19	△93	△329	65	—	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	△430	202	△29	△56	△13	△28	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△181	△264	△69	△49	△60	△78	△39	△42	△80	△44	△55	△64	△70
合計	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	8,915	8,500

※1 2013年3月に㈱トウベの株式譲渡により塗料部門から撤退

※2 2012年10月に古河コーマース㈱の株式譲渡により燃料部門から撤退

注:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

注:2016年3月期以前の売上高、営業利益の素材事業合計については、金属部門、電子部門、化成品部門の百万円以下を切り捨て、足し合わせた参考値です

銅価(\$/トン)	7,584	5,864	6,101	8,139	8,485	7,855	7,104	6,554	5,215	5,154	6,444	6,341	6,600
為替(円/\$)	114.28	100.54	92.85	85.71	79.07	83.10	100.24	109.93	120.13	108.42	110.85	110.91	110.00

『 中期経営計画2019 』 の進捗について

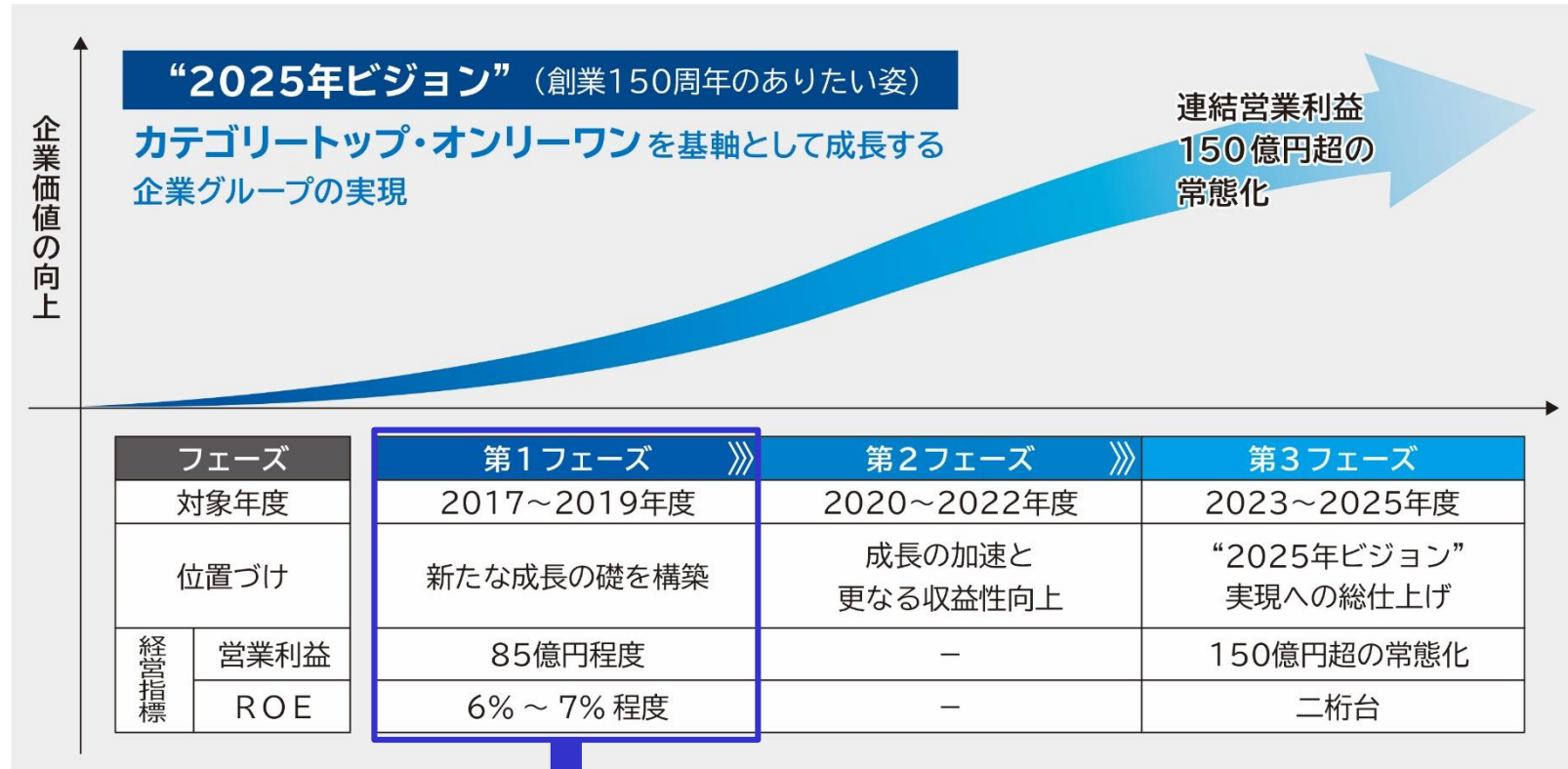
2019年5月21日

△ 古河機械金属株式会社



1. “2025年ビジョン”と『中期経営計画2019』の位置づけ
2. 2018年度総括（全社）
 - (1) 経営指標の進捗
 - (2) ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透
 - (3) セグメント業績の進捗/売上高
 - (4) セグメント業績の進捗/営業利益
 - (5) 企業価値向上に資する投資等の積極的推進
 - (6) 経営基盤の整備： 営業キャッシュフロー配分、資本政策
 - (7) 開発推進体制
 - (8) 人材基盤の拡充強化
3. 2018年度総括（セグメント別）
 - (1) 機械事業：産業機械部門
 - (2) 機械事業：ロックドリル部門
 - (3) 機械事業：ユニック部門
 - (4) 素材事業、不動産事業

1. “2025年ビジョン”と『中期経営計画2019』の位置づけ



当社は“2025年ビジョン”において初めて「ROE」を経営指標として採用。
中期経営計画2019は「ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透」を行う期間と位置づける。

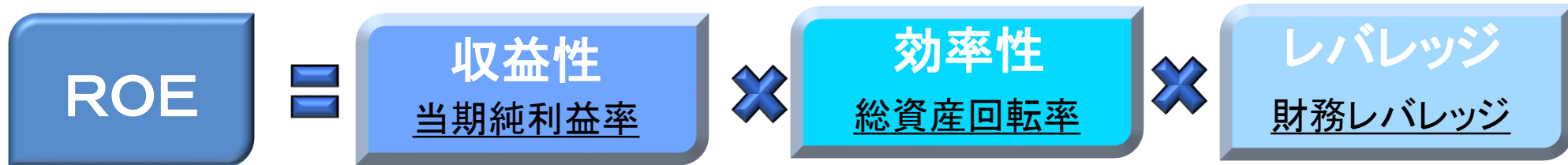
資本コストを的確に把握するとともに、事業ポートフォリオの見直しや、設備投資等を含む
経営資源の配分等に取り組んでいく。

2. 2018年度総括(全社)

(1) 経営指標の進捗

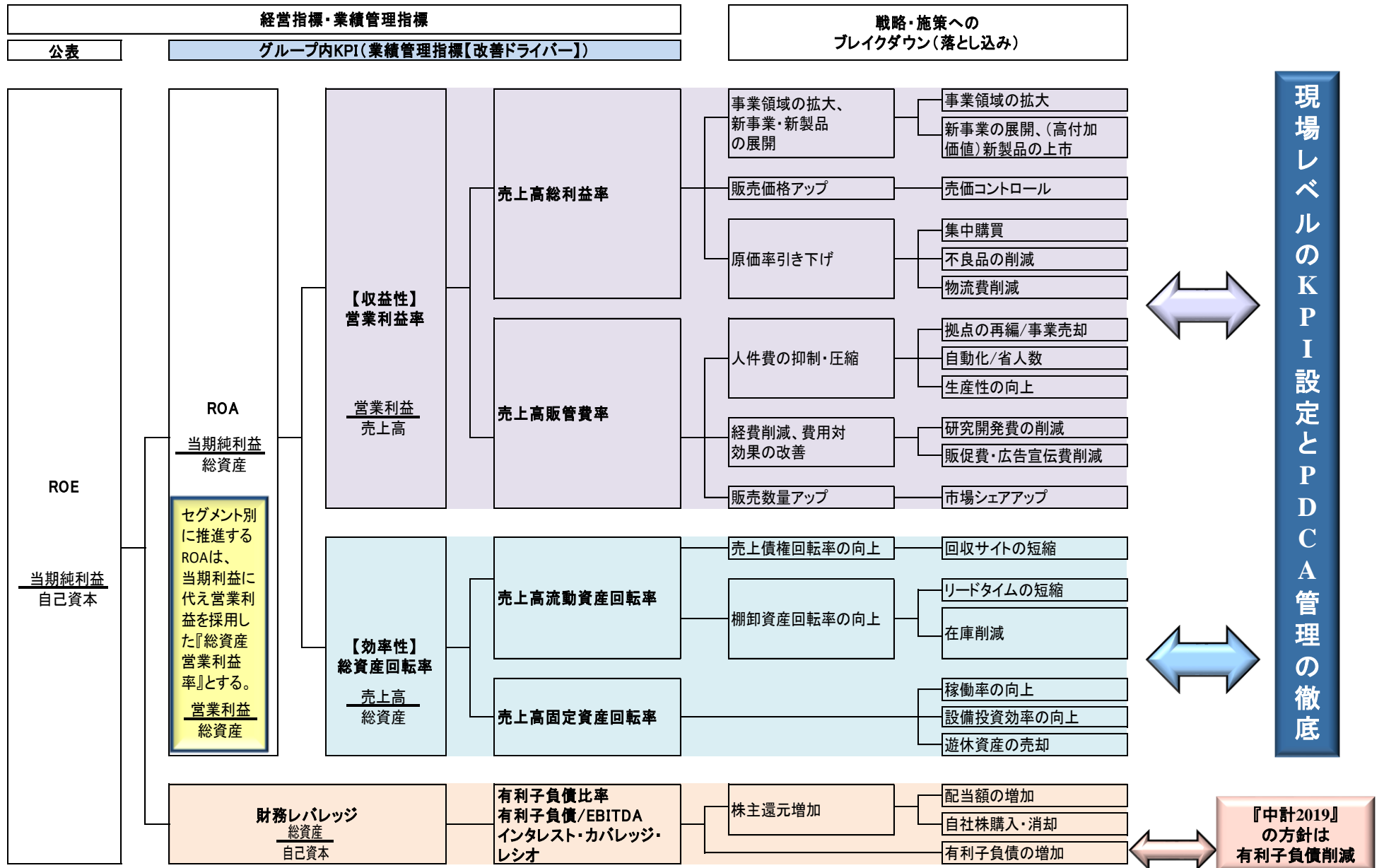
		『中期経営計画2019』	2017年度(実績)	2018年度(実績)
経営指標	営業利益	85億円程度	78.2億円	89.1億円
	ROE	6%~7%程度	5.9%	5.7%

(2) ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透 / 収益性と効率性の改善(2016年度比)

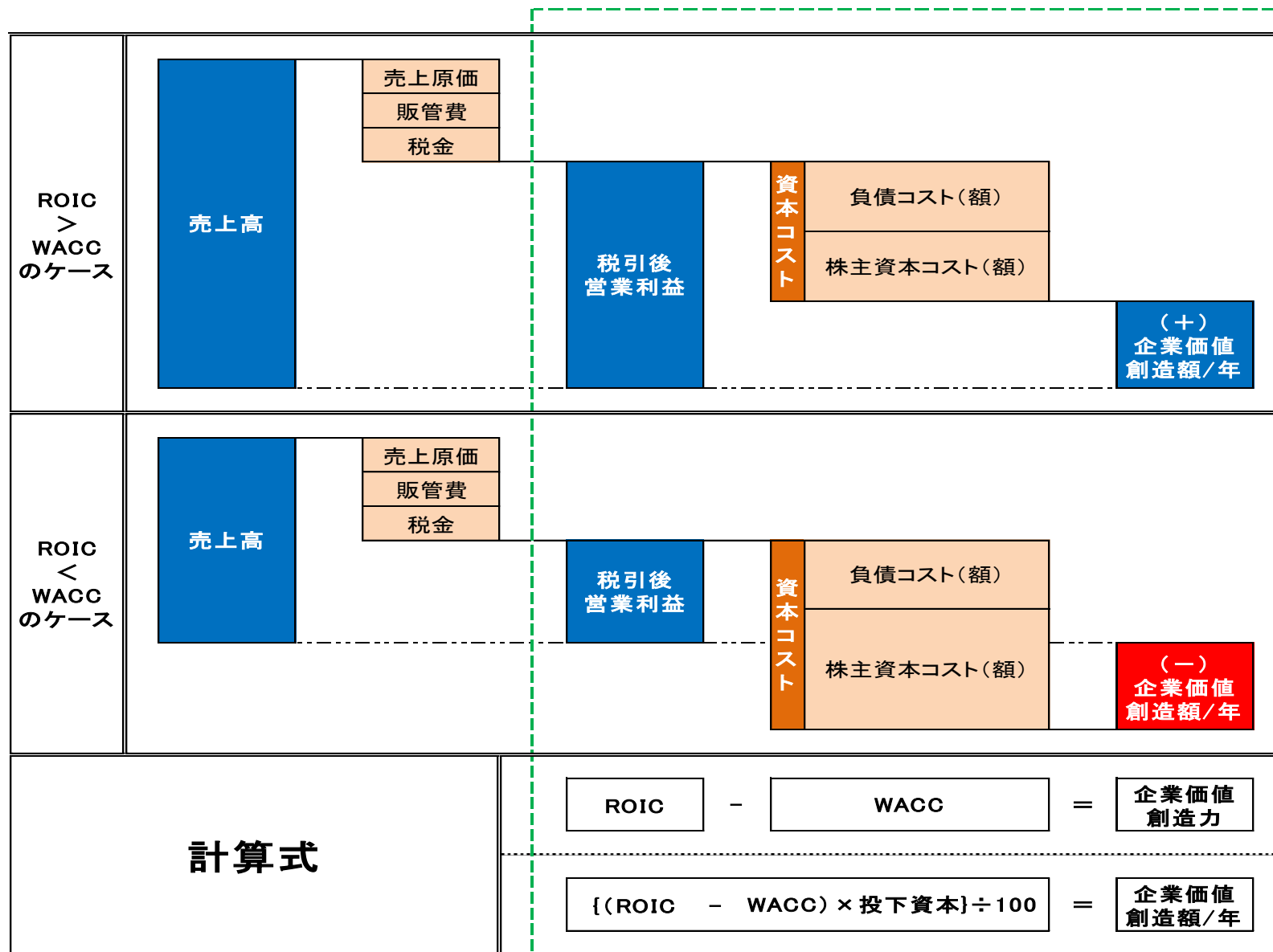


2015年度: 7.5% (実績)	3.12%	0.80回	2.98倍
2016年度: 5.9% (実績)	2.84%	0.74回	2.80倍
2017年度: 5.9% (実績)	2.85%	0.78回	2.65倍
2018年度: 5.7% (実績)	2.67%	0.79回	2.68倍
2019年度: 6%~7%程度	収益性: 改善	効率性: 改善	レバレッジ: 低下

ROEの要素分解による経営指標・業績管理指標の設定と戦略・施策へのブレイクダウン



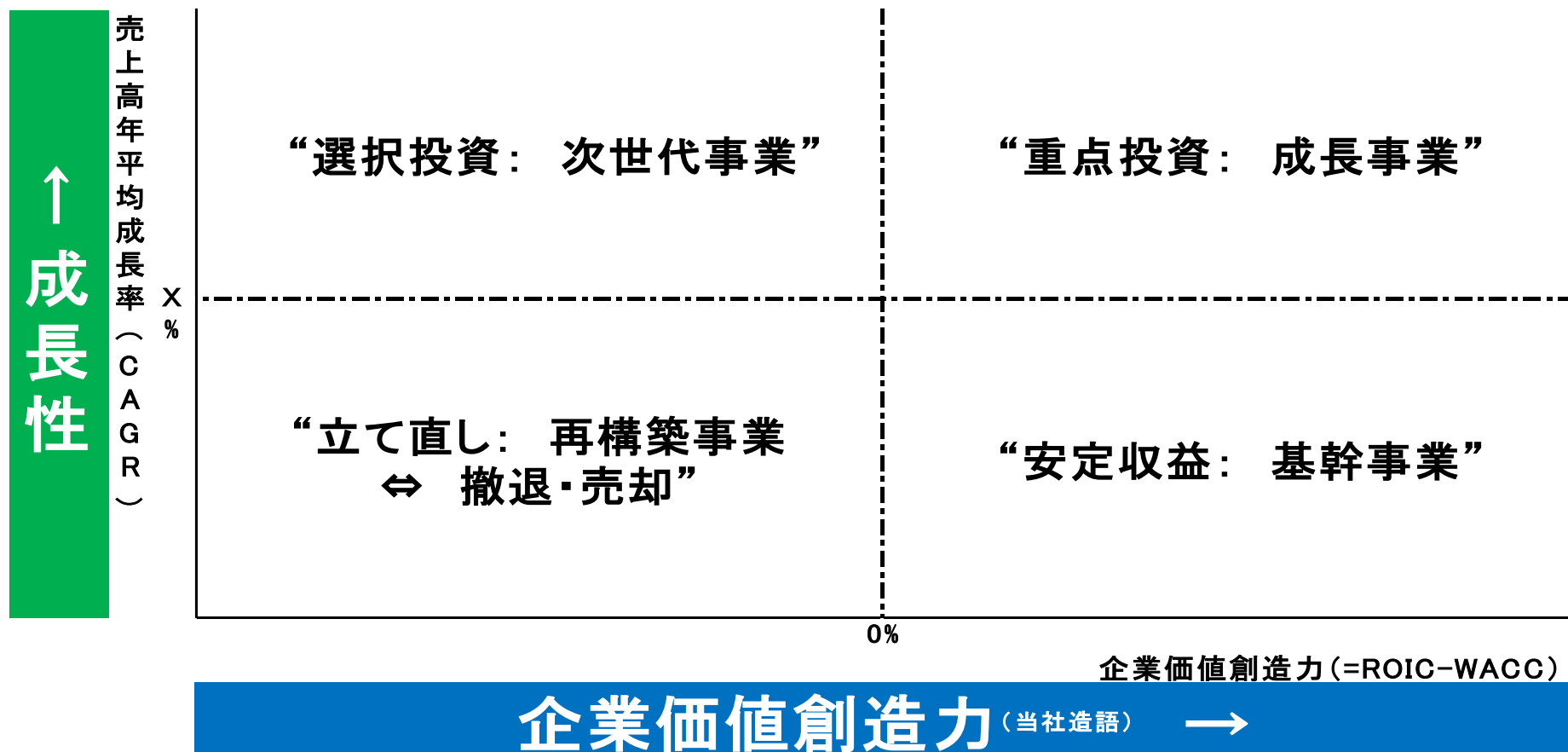
資本コストを的確に把握し、企業価値創造の現状を確認



事業ポートフォリオの見直し

ポートフォリオ・マッピングの手法により各事業部門の企業価値創造を可視化

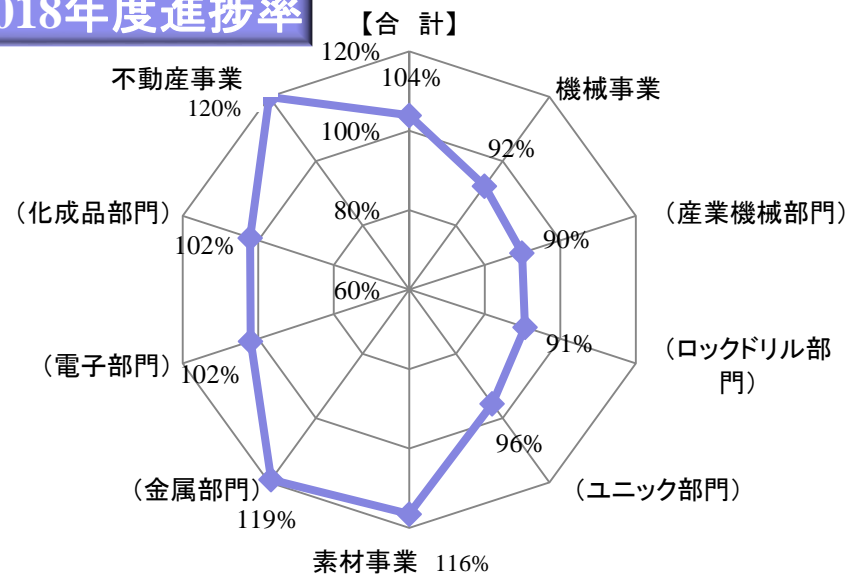
各事業部門の3要素【X軸：企業価値創造力(当社造語)(=ROIC-WACC)、Y軸：売上高年平均成長率(CAGR)、球の大きさ：企業価値創造額(当社造語){=(投下資本×企業価値創造力)÷100}】を下記グラフにマッピングし、企業価値創造を可視化



(3) セグメント業績の進捗 / 売上高

【前提条件】	2019年度想定(イメージ)	2018年度実績	2019年度想定(予想)
為替(円/USD)	110 円/USD	110.9 円/USD	110.0 円/USD
LME銅価格	6,000 USD/t	6,341 USD/t	6,600 USD/t

2018年度進捗率

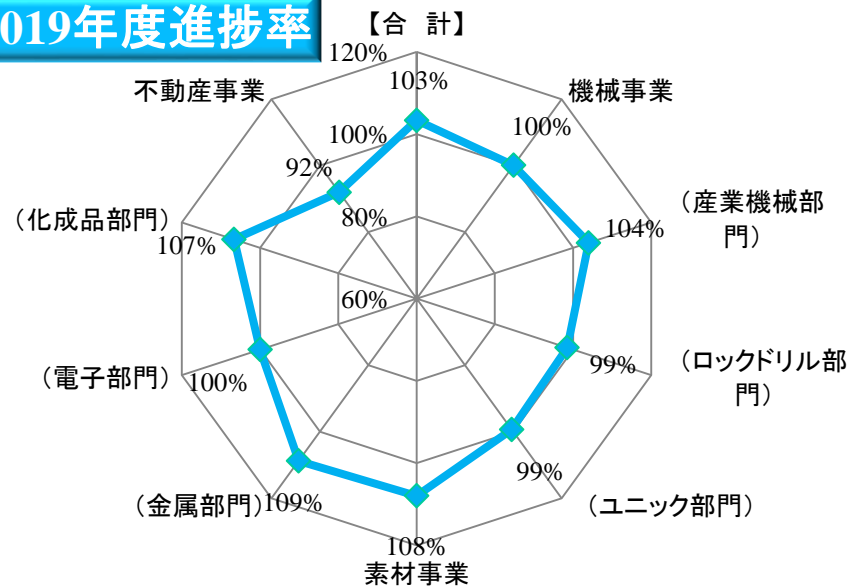


【売上高】

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

	2019年度 (イメージ)	2018年度 (実績)	進捗率	2019年度 (予想)	進捗率
機械事業	84,100	77,580	92%	84,200	100%
産業機械部門	20,000	17,971	90%	20,800	104%
ロックドリル部門	33,500	30,372	91%	33,000	99%
ユニック部門	30,600	29,237	96%	30,400	99%
素材事業	79,600	92,722	116%	85,900	108%
金属部門	67,200	80,067	119%	73,100	109%
電子部門	6,400	6,527	102%	6,400	100%
化成品部門	6,000	6,127	102%	6,400	107%
不動産事業	2,500	2,999	120%	2,300	92%
その他	1,400	814	58%	900	64%
【合計】	167,600	174,116	104%	173,300	103%

2019年度進捗率



(4)セグメント業績の進捗 / 営業利益

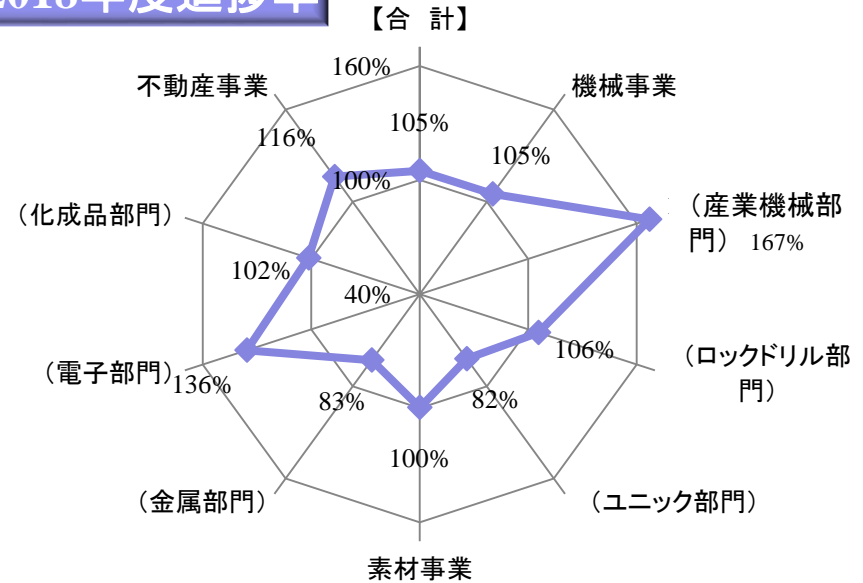
【営業利益】

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

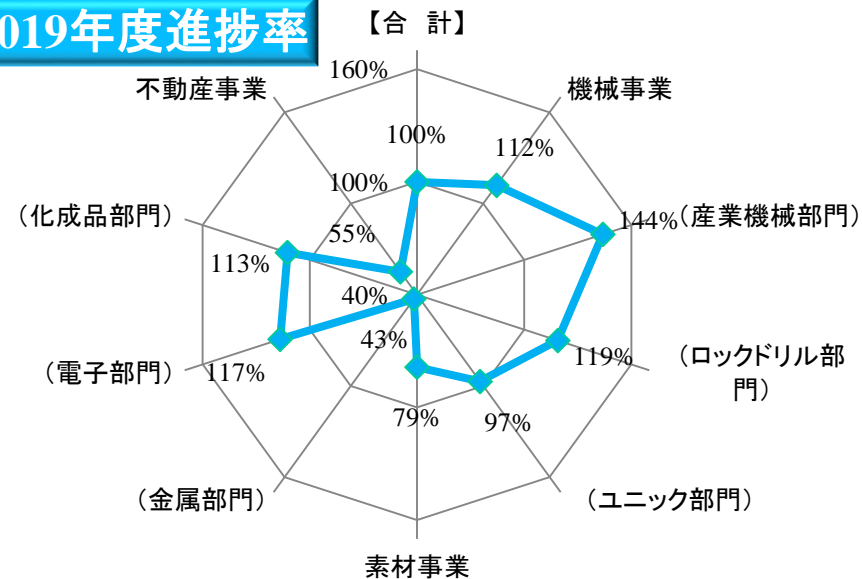
	2019年度 (イメージ)	2018年度 (実績)	進捗率	2019年度 (予想)	進捗率
機械事業	6,250	6,567	105%	7,000	112%
(*構成比)	(72%)	(72%)	-	(81%)	-
産業機械部門	1,250	2,088	167%	1,800	144%
ロックドリル部門	1,600	1,689	106%	1,900	119%
ユニック部門	3,400	2,789	82%	3,300	97%
素材事業	1,400	1,396	100%	1,100	79%
(*構成比)	(16%)	(15%)	-	(13%)	-
金属部門	700	581	83%	300	43%
電子部門	300	407	136%	350	117%
化成品部門	400	406	102%	450	113%
不動産事業	1,000	1,163	116%	550	55%
(*構成比)	(12%)	(13%)	-	(6%)	-
その他	△40	△147	-	△80	-
(計)	8,610	8,980	-	8,570	-
調整額	△110	△64	-	△70	-
【合計】	8,500	8,915	105%	8,500	100%

* 構成比は、合計からその他、調整額を除いた額に対する比率

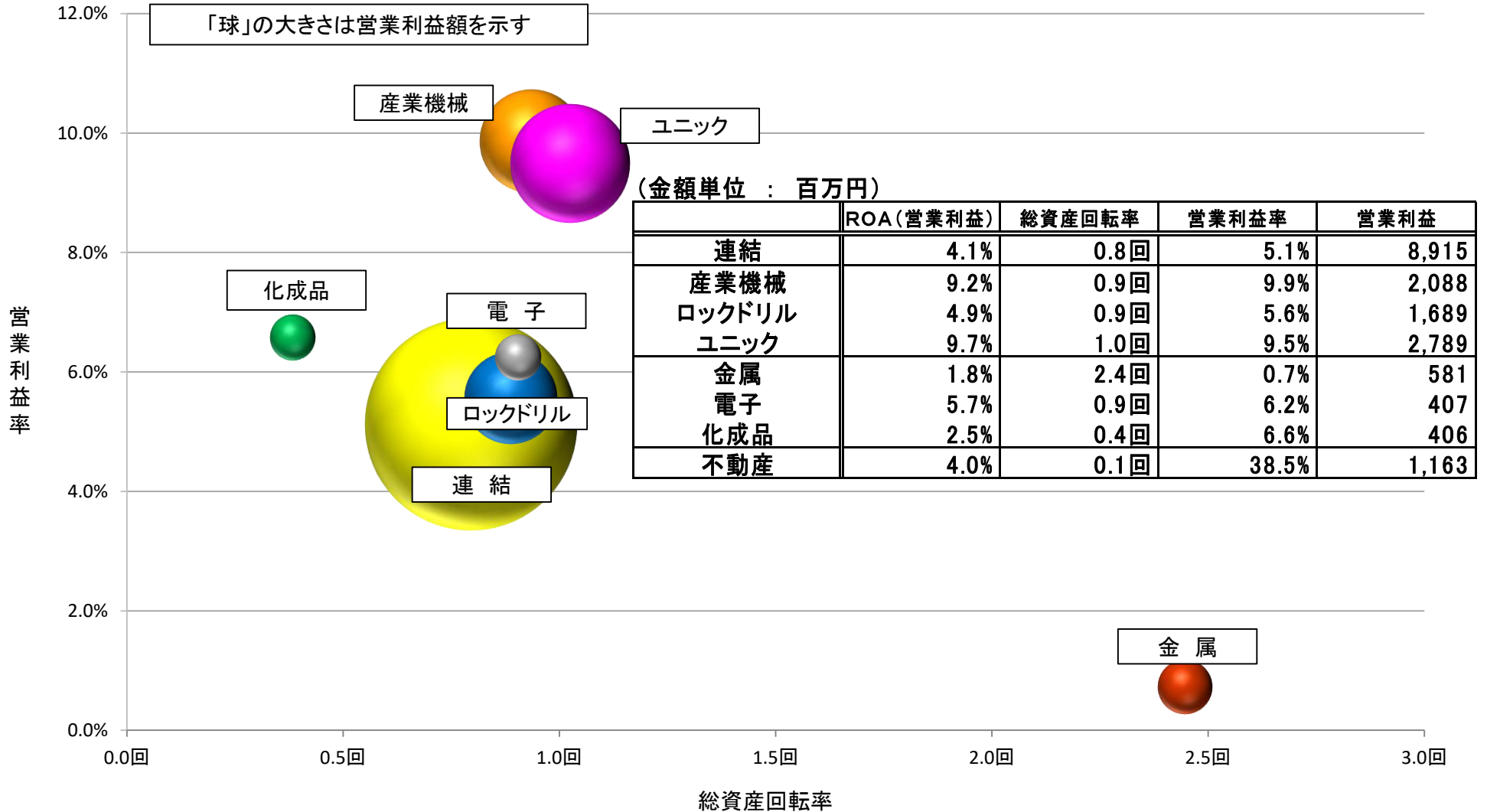
2018年度進捗率



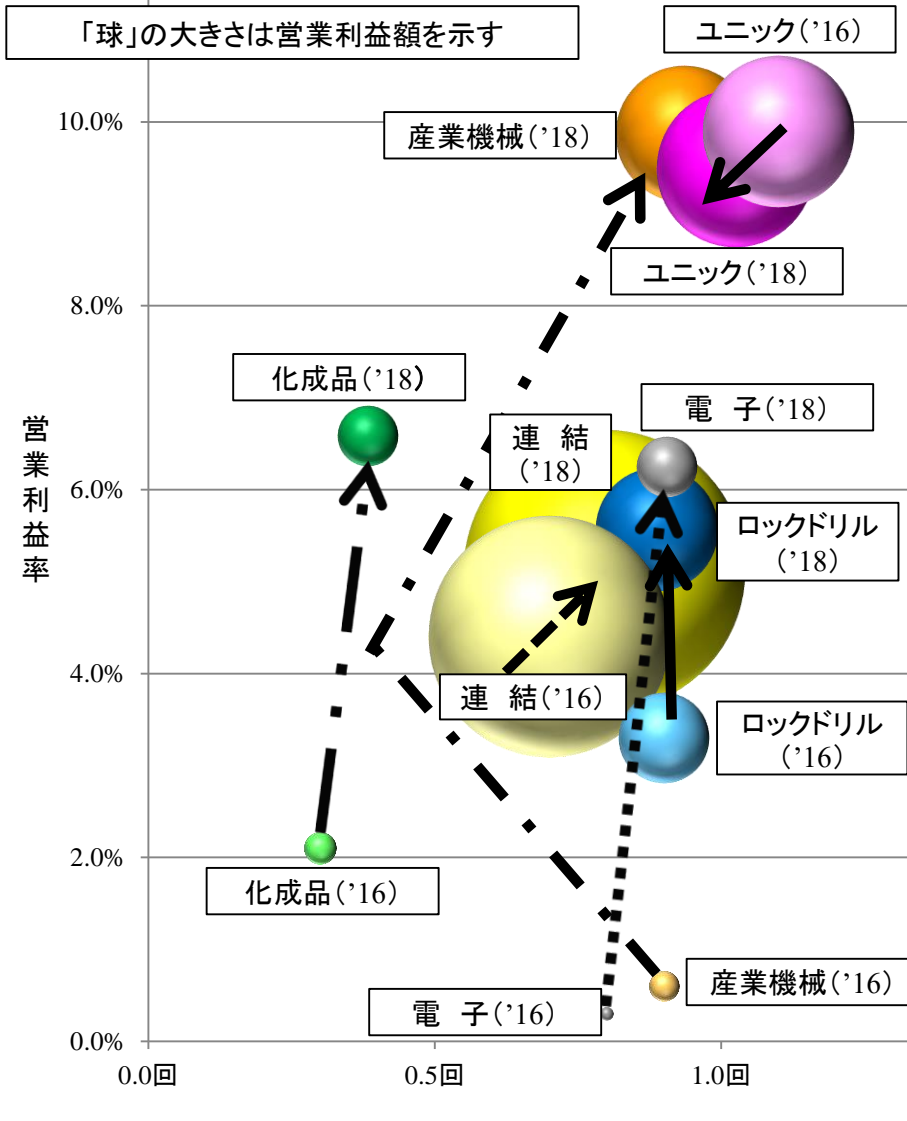
2019年度進捗率



2018年度【ROA(営業利益) 総資産回転率 営業利益率 営業利益】

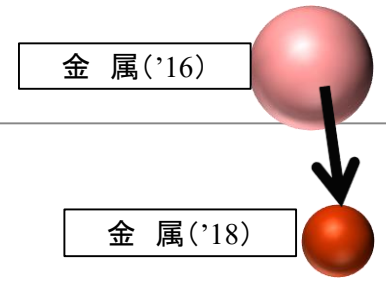


2016年度/2018年度の対比【ROA(営業利益) 総資産回転率 営業利益率 営業利益】



(金額単位 : 百万円)

年度	セグメント	ROA(営業利益)	総資産回転率	営業利益率	営業利益
2016年度	連結	3.2%	0.7回	4.4%	6,545
	産業機械	0.5%	0.9回	0.6%	104
	ロックドリル	2.9%	0.9回	3.3%	897
	ユニック	11.2%	1.1回	9.9%	2,578
	金属	6.2%	2.4回	2.6%	1,738
	電子	0.2%	0.8回	0.3%	17
2018年度	連結	4.0%	0.1回	39.4%	1,265
	連結	4.1%	0.8回	5.1%	8,915
	産業機械	9.2%	0.9回	9.9%	2,088
	ロックドリル	4.9%	0.9回	5.6%	1,689
	ユニック	9.7%	1.0回	9.5%	2,789
	金属	1.8%	2.4回	0.7%	581
2018年度	電子	5.7%	0.9回	6.2%	407
	化成品	2.5%	0.4回	6.6%	406
	不動産	4.0%	0.1回	38.5%	1,163



(5) 企業価値向上に資する投資等の積極的推進

1 「モノづくり力の強化」を支える設備投資計画等

(単位: 百万円、単位未満切り捨て)

設備投資: 2017年度～2019年度累計額のイメージ

機械事業 (*)	120億円
素材事業	20億円
その他	20億円
合計	160億円



設備投資額		進捗率 (累計)
2018年度	2017年度～2018年度累計額	
4,421百万円	8,636百万円	72%
375百万円	677百万円	34%
645百万円	1,150百万円	58%
5,442百万円	10,464百万円	65%

(*) 機械事業セグメントの設備投資内訳のイメージ

産業機械: 維持・更新、他	20億円
ロックドリル: 吉井工場設備増強・レイアウト改革、他	40億円
ユニック: 佐倉工場のマザー工場機能の強化、他	60億円

設備投資額		進捗率 (累計)
2018年度	2017年度～2018年度累計額	
269百万円	627百万円	31%
2,386百万円	2,921百万円	73%
1,765百万円	5,087百万円	85%

2 M&A、アライアンス

方針

- 現有の機械事業の隙間を埋めて連続性を創るような周辺の事業会社や、機械事業における全く別の第4の柱となる事業会社を対象としたM&A、アライアンスを検討

2018年度の取り組み

- 現時点において、リリース済のアライアンス案件である「ODM契約による古河シーパックスポンプの販売開始」を除き、ご説明できる個別具体的な案件はありませんが、今後とも継続して検討していきます

(6) 経営基盤の整備： 営業キャッシュフロー配分、資本政策

『中期経営計画2019』

- 連結営業利益 85億円 程度
- ROE 6%~7% 程度

手元流動性

営業CF

(3年間累計額のイメージ)

250億円

有利子負債削減

(3年間累計額のイメージ)

30億円

設備投資

(3年間累計額のイメージ)

160億円

配当

(3年間累計額のイメージ)

60億円

自己株式の取得・消却

株価の動向や資本効率、キャッシュ・フロー等を勘案しつつ適宜検討

2017年度~2019年度累計額のイメージ

2017年度~2019年度累計額のイメージ		
営業CF	250億円	
配分	有利子負債削減(*1)	30億円
	設備投資(*2)	160億円
	配当(*3)	60億円
	自己株式の取得	— 億円

2018年度

2017年度~2018年度累計額

進捗率
(累計)

2018年度	2017年度~2018年度累計額	進捗率 (累計)
11,785百万円	17,136百万円	69%
714百万円	910百万円	30%
5,442百万円	10,464百万円	65%
2,020百万円	4,040百万円	67%
1,208百万円	1,210百万円	—

*1 借入金(短期借入金・長期借入金)のみでリース債務を含みません。

*2 取得価額です。有形固定資産・無形固定資産の取得による2018年度の支出額は、4,827百万円、支出累計額は10,223百万円です。

*3 配当総額です。【「中計2019」の連結配当性向目処30%以上に対し、2017年度(実績)42.3%、2018年度(実績)43.0%、2019年度(予想)36.0%】

(7) 開発推進体制

- 再編後の技術統括本部が各事業会社と緊密な連携をとり、機械、素材の分野を超えた柔軟な発想で、グループ全体の総合技術力の強化に取り組んでいます。
- 研究開発・製品開発体制の強化を目的に、2019年度から運営方法に改善を加えた開発委員会をスタート。

(8) 人材基盤の拡充強化

重点課題	2018年度の主な取り組み
人材育成	<ul style="list-style-type: none">様々な社員が能力を最大限に発揮してそれに見合った役割と処遇を得られる働きやすい環境を整備し、働き甲斐のある会社を実現することを目的に、現在の社員制度(コース別社員制度、職能資格等級制度、給与制度)の2019年7月の一括改訂を目指し、4月に事前説明会を実施。次世代の経営を担う人材育成の強化を目的に2018年度に新たに導入した「経営人材育成プログラム」の累計修了者数は、34名に達した。LCSビジネスを推進中のロックドリル部門では、クローラドリルのオペレーションや整備・サービスに習熟した「ドリルマスター」を育成すべく、若手を中心に国内の現場にて研修を開始。ユニック部門では、昨年10月に「組織開発」を目的とした「営業拠点強化プログラム」を導入。全国拠点長・No.2クラスを対象とした第2回目のグループ研修を2019年6月に開催する予定。
「働き方改革」の推進	<ul style="list-style-type: none">時間外労働削減、有給休暇取得率の向上に着手するも、具体的な改善は今後の課題。フレックスタイム制、テレワークは、2019年下期の実施を目指し制度導入の有効性を検討。会議の見直し・削減、WEB会議の活用拡大などにより、会議の効率化を推進。全社統一の就労システム(2019年4月1日に導入)により得られる正確な就労管理情報を活用し、業務の見直し(廃止・集約・簡素化など)、適正人員の配置等を推進していきます。
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none">学卒新卒採用に占める女性割合20%以上の目標に対し、2019年度は13%(4名/32名)。新規雇用者の増加による当社グループの障がい者法定雇用率の達成に向け取り組みを強化した結果、前年度1.75%であった雇用率は1.88%(法定雇用率2.2%に対し不足8人)に改善。なお、古河機械金属株単体の雇用率は、4.27%と法定雇用率を充足済。

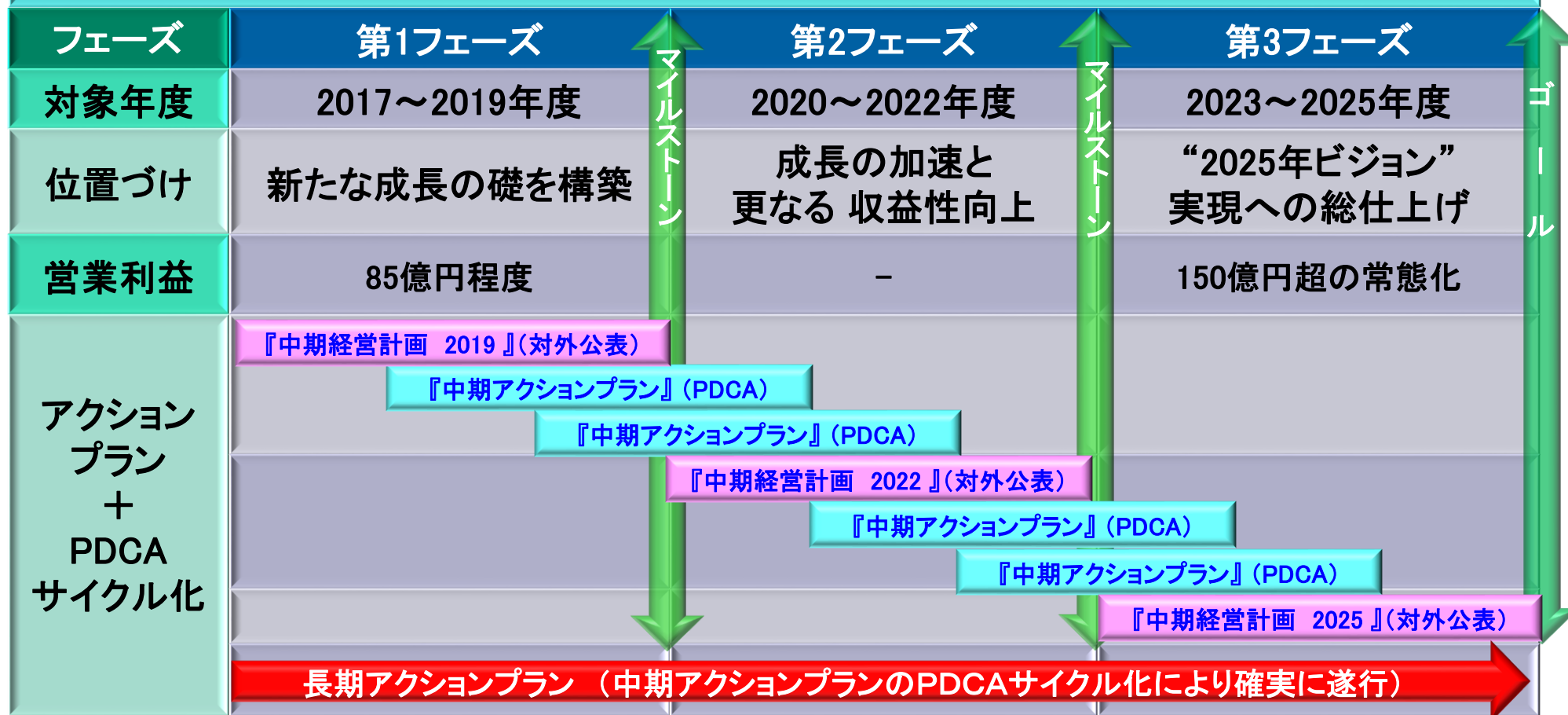
- 定期的なPDCAのサイクル化により、部門ごとに構築した具体的なアクションプランの徹底した遂行管理を推進中。

“2025年ビジョン”「FURUKAWA Power & Passion 150」

(創業150周年のありたい姿)

カテゴリトップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現

－ 創業150周年を迎える2025年度に向けて、連結営業利益150億円超の常態化を目指します －



3. 2018年度総括(セグメント別)

(1) 機械事業：産業機械部門

基本戦略

セクションプラント工事案件の取り込みおよび大型工事プロジェクト案件などのコントラクタ事業の拡大を図る等、単なる機器メーカーからの脱却を目指して、エンジニアリング力の強化を図り、国内市場における事業基盤の拡充に取り組みます。

1 エンジニアリング力の強化

主な事業戦略

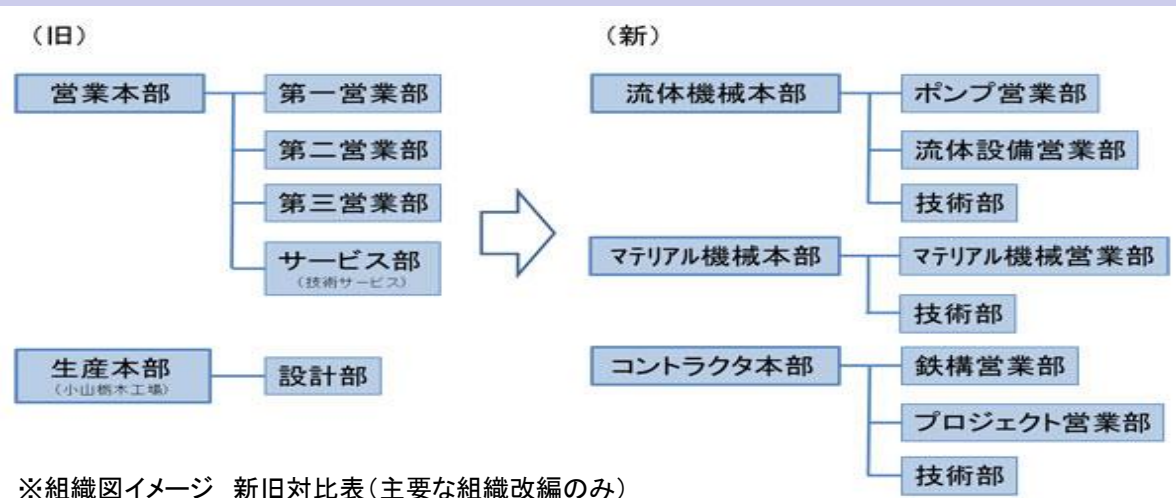
顧客の調達段階での引合対応中心の営業
(単体の製品力で勝負)

「ベンダー」から
「戦略的パートナー」へ

顧客の計画段階から参画、情報収集し
前後工程の設備を含めた提案営業
(他社技術・製品の活用も含めた
エンジニアリング力で勝負)

主な進捗

- 顧客の戦略的パートナーとなるべく、エンジニアリング力の強化を目的とした組織改編を決定。(2018.4.1付改編)



※組織図イメージ 新旧対比表(主要な組織改編のみ)

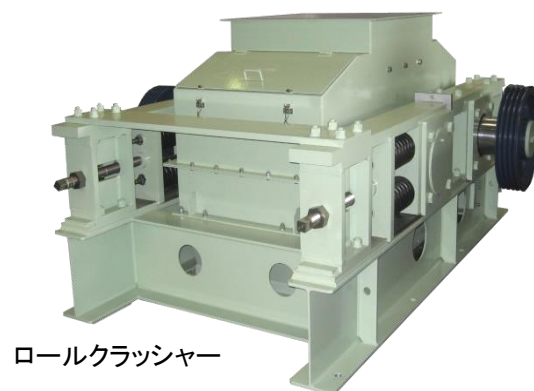
(1) 機械事業： 産業機械部門

2 マテリアル機械

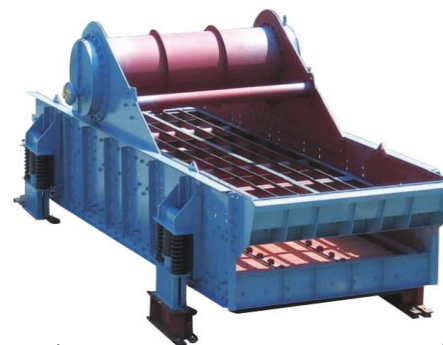
主な事業戦略	主な進捗
<ul style="list-style-type: none"> マテリアル機械を核とする高効率生産システムの提案とセクションプラント工事案件の拡販 	<p>＜新規案件＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務向けセクションプラント（福島県双葉郡双葉町）

• 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務向けセクションプラント

ロールクラッシャー7台、スクリーン8台、ブリケッティングマシン4台を含むセクションプラントを受注し進捗中。



ロールクラッシャー



スクリーン



ブリケッティングマシン

3 コントラクタ

主な事業戦略	主な進捗	
<ul style="list-style-type: none"> 鋼橋梁新設/補修工事、鋼製セグメント、大型工事プロジェクトなどのコントラクタ事業の拡大 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤ 小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役設備
	新規	<ul style="list-style-type: none"> 特定廃棄物セメント固型化処理設備（福島県双葉郡檜葉町） 中間貯蔵設備向けベルトコンベヤ（福島県双葉郡大熊町）

(1) 機械事業： 産業機械部門

継続案件

● 東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤ

約4.7kmの長距離曲走コンベヤに加え引出コンベヤも追加受注(設計・製造・据付を含む)し進捗中。

受注規模 57億円強
2019年3月末
進捗率約80%

→総合監視設備、運転管理の受注も目指す。



設置工事が進む外環道工事現場



● 小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役設備(その1, 2)

ベルトコンベヤ3基(合計約369m)、乗継建屋2基、トラックホッパ1基を受注(設計・製造・据付を含む)し進捗中。

受注規模 37億円強
2019年3月末
進捗率約40%

→その3工事の受注も目指す。



ベルトコンベヤの設置工事状況

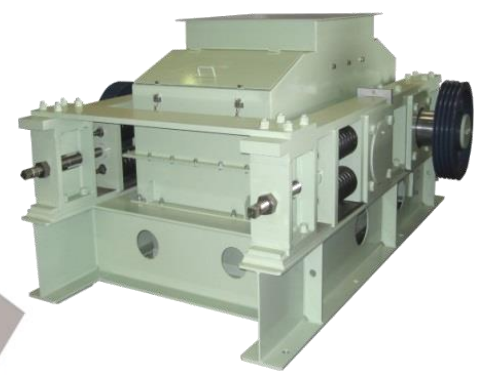
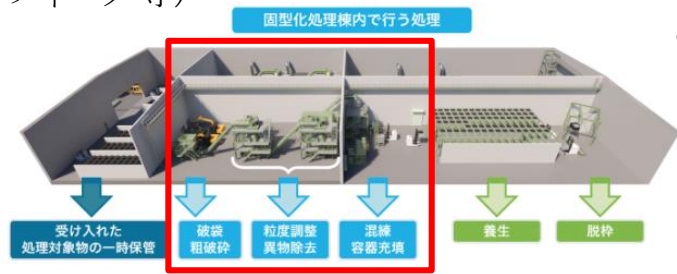
(1) 機械事業： 産業機械部門

新規案件

- 特定廃棄物セメント固型化処理設備 (福島県双葉郡檜葉町)

前処理設備 (1次破碎機、2次破碎機、スクリーン、フィーダ等)
及び固型化処理設備セクションプラントを受注
(設計・製造を含む)し納入済み。

受注規模 6億円強
2019年3月末
進捗率100%



ロールクラッシャー

図：環境省 特定廃棄物の埋立処分事業情報サイトより引用

- 中間貯蔵設備向けベルトコンベヤ (福島県双葉郡大熊町)

大熊2工区のベルトコンベヤ3基 (合計約1250m)、
乗継部を受注 (設計・製造・据付を含む)し進捗中。

受注規模 17億円強
2019年3月末
進捗率約10%

立入規制地域のため
省人化・集中管理等でベルトコンベヤに
優位性あり。
→類似案件の受注を目指す。



設置工事が進む分別施設から中継ヤードまで運搬するためのベルトコンベヤ

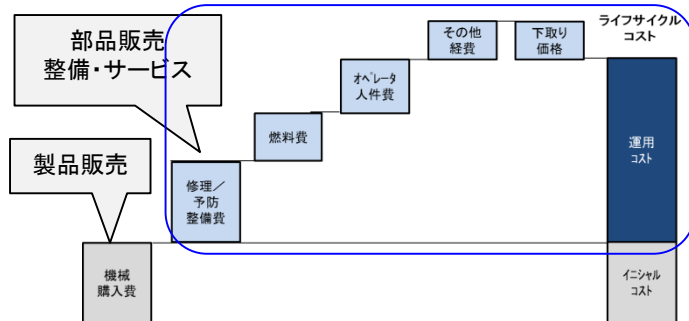
(2) 機械事業： ロックドリル部門

基本戦略

ライフサイクルサポート 機能の強化による、フロービジネス・ストックビジネス両輪での収益拡大と、ドリル製品群(ブラストホールドリル、ドリルジャンボ)の収益基盤の強化を目指して、国内サービスサポート体制の充実と海外販売チャネルの確立に取り組みます。

1 ライフサイクルサポート 機能の強化

主な事業戦略	主な進捗
<ul style="list-style-type: none">稼働管理システムによるライフサイクルサポート機能強化	<ul style="list-style-type: none">油圧ブレーカの稼働監視・稼働記録装置、ブラストホールドリル用稼働管理装置、ドリルジャンボ用せん孔データ自動転送装置からのデータ収集と分析・改良を推進。
<ul style="list-style-type: none">社内データベース(統合システム)構築	<ul style="list-style-type: none">2020年3月完成を目標に統合システムを構築中。
<ul style="list-style-type: none">部品販売拡大	<ul style="list-style-type: none">海外における部品販売強化地域の選定と販売強化を推進。フルメンテナンスプログラムの試験運用開始。
<ul style="list-style-type: none">国内整備事業の拡充・強化	<ul style="list-style-type: none">油圧ブレーカの自社整備工場を東北と関西に新設し整備事業開始。



製品販売後も古河が顧客にメリットを提供し続けることで、部品販売、整備・サービス等のストックビジネスを取り込む。

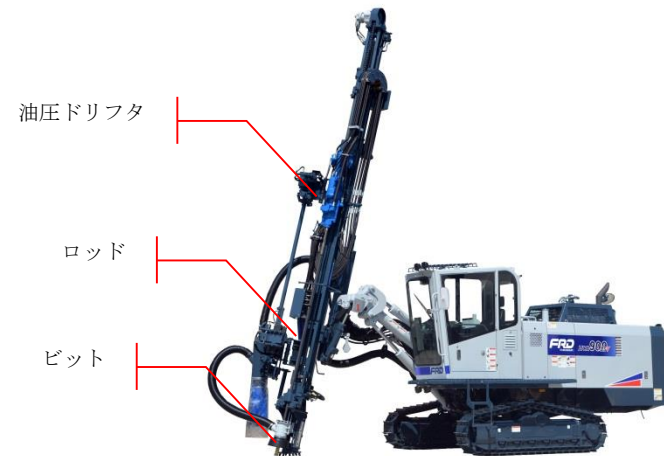
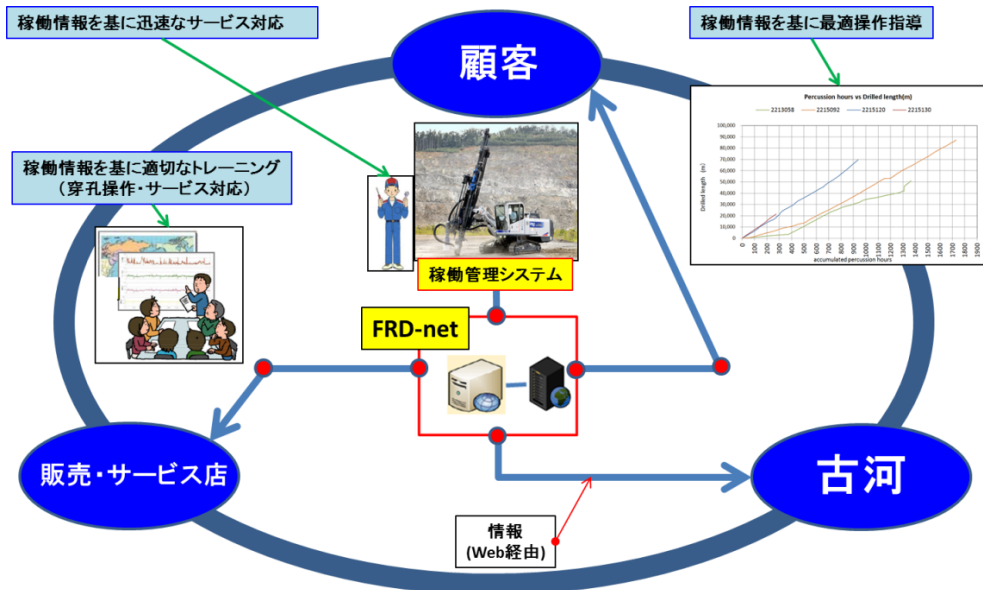
そのための仕組みづくりを実行中。



(2) 機械事業： ロックドリル部門

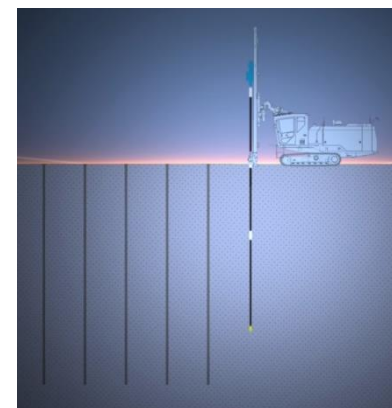
稼働管理システムによるライフサイクルサポート機能強化

油圧クローラドリル稼働管理システムを活用した顧客サポートイメージ



作業時間、エンジン回転数等に加えて、油圧クローラドリル特有の複雑な操作の状況(穿孔数、穿孔長、打撃時間等)を把握

採掘現場での穿孔イメージ



孔の中での穿孔状態は視覚で確認できないため、その操作は油圧ショベルに比べ格段に難しく、オペレーターの技量によって作業効率が左右される。

2019年度から油圧クローラドリル国内出荷機に稼働管理装置を標準搭載。

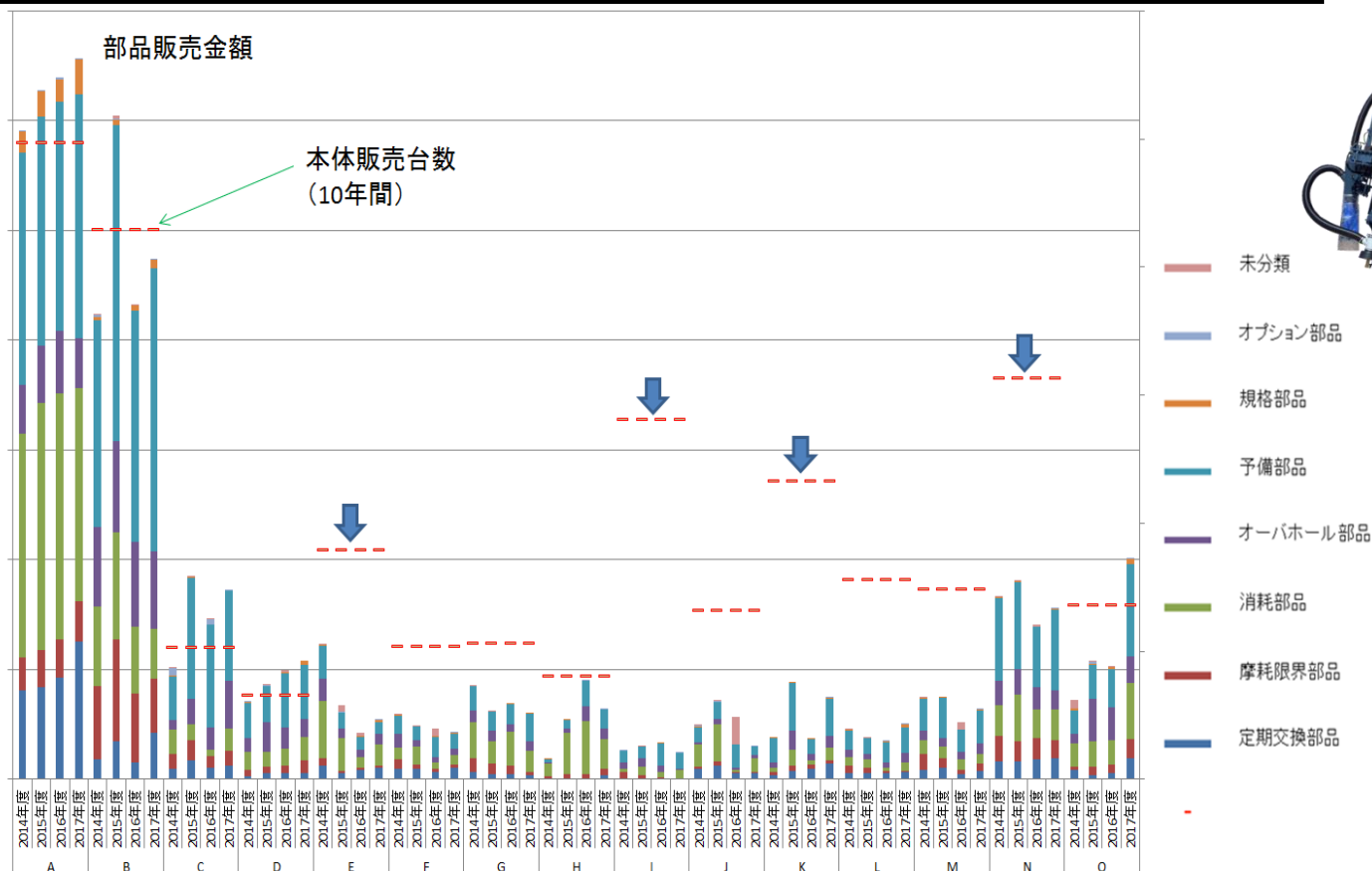
稼働管理システムにおいてモニタリング・分析することで、不具合発生の兆候を未然にキャッチし機械のダウンタイムを低減するとともに、顧客の穿孔作業の改善や業務効率改善につなげていく。

- ・顧客の満足度向上イメージ
作業効率向上、不具合未然防止による修理費用低減、穿孔状況の把握による容易な作業管理、ドリル部品等の破損低減、等。
- ・販売・サービス店の満足度向上イメージ
いつでもどこでも機械の状態を把握でき迅速なサービス提供が可能、サービス計画の立案が容易、効率的な部品在庫が可能、予防保全により不具合による顧客からの緊急要請の回数低減等。

(2) 機械事業： ロックドリル部門

海外における部品販売強化地域の選定と販売強化

地域別：油圧クローラドリルの部品販売金額と本体販売台数イメージ



本体販売台数が多く、部品販売金額が伸びてない地域を部品販売強化地域として選定済み。
→対象となる国(E、I、K、N)に注力した販売戦略(キャンペーン、価格見直し等)を展開していく。

(2) 機械事業： ロックドリル部門

国内整備事業の拡充・強化

油圧ブレーカの自社整備によるストックビジネス強化(国内)

油圧ブレーカの自社整備を東北地区と関西地区で開始

→整備用の部品販売増を図る。

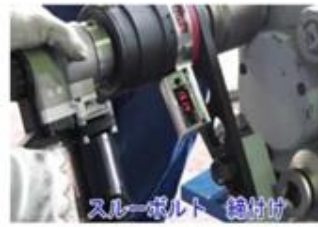
ポイント

- ・メーカー品質の整備
- ・整備記録データ化による安心サポート
- ・計画的整備の提案



リビルドした油圧ブレーカ及び油圧圧砕機シリンダ(左)

専用整備治具を使用したメーカー品質の整備(油圧ブレーカ)



分解・点検報告書			
機種	FX220	機番	1636
機種	FX220	機番	1636
4. ロッド、ロッドピンストップピン			
Photo(s) if any		<p>ロッドをフロントヘッドに押し込んだ状態での寸法</p>	
機種	FX220	製品時	725 mm
所見		測定値	550 mm
使用箇所		使用箇所	406 mm
		判定	使用可能
		処置	処置
Photo(s) if any			
機種	FX220	製品時	80 mm
所見		L 測定値	
		R 測定値	
使用箇所		使用箇所	77 mm
		判定	未測定
		判定	未測定
		処置	部品使用
		処置	部品使用
ロッドピンは両側に交換して下さい。			
所見			

(2) 機械事業： ロックドリル部門

2 国内

主な事業戦略

- トンネルドリルジャンボの展開強化



リニア向けトンネルドリルジャンボ
3ロングブーム2ケージ

主な進捗

- リニア中央新幹線、北海道整備新幹線での販売活動を強化。

■リニア中央新幹線



NATM工事全32工区 (約160km)
→需要台数は100台前後と見込む
(現時点での推定。進捗度合で増加の可能性有)

施工業者決定済み 16工区
(約96kmで全体の約60%)
→現時点での需要台数は55-60台程度
新車・中古含め発注台数の約90%を当社が受注

今期より新車需要は増加する見込み

■北海道整備新幹線



NATM工事全36工区 (約158km)
→需要台数は36台と見込む
(現時点での推定)

施工業者決定済み 32工区
(約145kmで全体の約92%)
→現時点での需要台数は36台
新車・中古含め発注台数の約90%を
当社が受注

新車需要は今期でピークアウト
その後は部品・アフター整備サービスが
見込まれる

3 海外

主な事業戦略

- ブラストホールドリル、ドリルジャンボの事業基盤を拡大

主な進捗

- 東南アジアの販売サービス拠点としてマレーシアにFURUKAWA MACHINERY ASIA SDN.BHD.を設立。

(2) 機械事業： ロックドリル部門

4 生産体制

主な事業戦略

- 工場設備増強・レイアウト改革による生産性の向上

主な進捗

- 高崎吉井工場(吉井)の設備投資開始。
(2017年度から5年間、総額約68億円)

生産能力増強および生産性向上

→組立工程・部品塗装改革、製缶設備増強、出荷検査工程改善等
環境対応および品質向上

→塗装環境改善、耐久試験設備拡充等

LCS強化

→事務研修棟新設

5 製品開発

主な事業戦略

- 製品ラインアップの拡充・強化

主な進捗

- 新型油圧クローラドリル「HCR1800-ED II」を開発、販売開始。



- 超大型油圧ブレーカを開発、販売開始。



- 鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造解体用の大割用油圧圧砕機を開発、販売開始。



(3) 機械事業： ユニック部門

基本戦略

国内販売での安定的な収益確保とストックビジネスおよび海外販売での収益拡大を目指して、ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化、中古ビジネスの推進、海外の販売店網の再整備と販売力強化に取り組みます。

1 国内【国内販売での確実な利益確保】

主な事業戦略

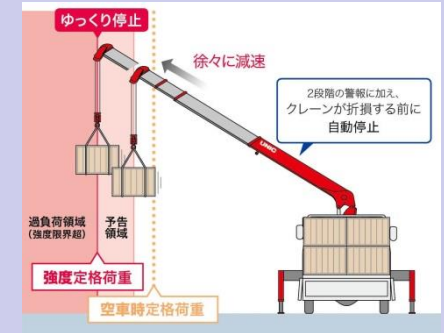
- ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化（モデルチェンジ、装置開発）



- ストックビジネスの拡充・強化

主な進捗

- 厚生労働省による移動式クレーン構造規格の一部改正に対応した安全強化モデルを開発・販売開始
 - 『ML警報型』
荷重が定格荷重を超える前に警音を発するモデル
 - 『ML停止型』
定格荷重を超えた場合に直ちにクレーン作動を自動的に停止するモデル



- サービス(技術)講習会を全国で開催(年間累計:16回、前年比△2回)。
- 年次点検促進による部品販売強化を実施。
- 中古ビジネス(中古下取り、修理、再販)参入に向け検討を開始。

(3) 機械事業： ユニック部門

2 海外

主な事業戦略

- 販売店網の再整備と販売力強化

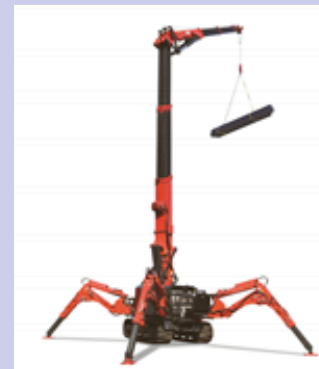
主な進捗

- 重要ターゲットとする国ごとに課題と対策を洗い出し営業展開。
- ユニッククレーンの販売店を見直し、取引価格を適正化(値上げ)。
- ミニ・クローラクレーンのレンタルが進む欧米にて収益拡大中。
- 環境対応モデルとしてバッテリー式ミニ・クローラクレーンを上市。
- 狭所・住宅密集地に進入可能な住宅建設用ミニ・クローラクレーンを上市。

バッテリー式



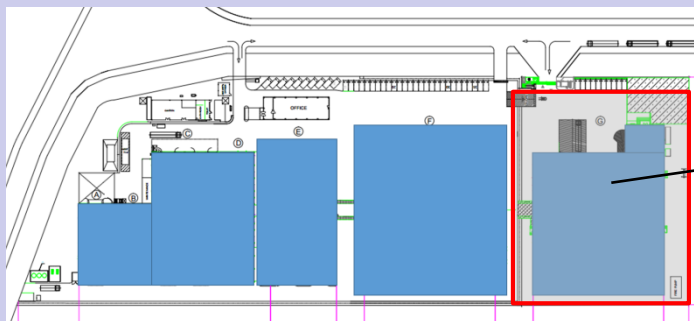
住宅建設用



FURUKAWA UNIC (THAILAND) CO.,LTD.



- 海外輸出機の生産拠点であるタイ工場(FUT)を拡張。
ノックダウン部品倉庫及び輸出機出荷場を整備。



拡張

(3) 機械事業：ユニック部門

3 生産体制

主な事業戦略

- 佐倉工場のマザー工場化と三極生産体制の機能強化、生産コスト低減



佐倉工場 《撮影日：2018年2月》



主な進捗

- 佐倉工場の設備投資実施(2016年度から4年、総額約87億円)。

設備投資項目	内 訳	効 果
1.油圧部品製造工程改革	①油機工場	<ul style="list-style-type: none"> 工数減→内製化推進 加工クレーム減 効率性アップ 収益性アップ
	②組合せ検査場	<ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度向上 社員満足度向上
2.架装工程改革		<ul style="list-style-type: none"> 輸送費減 外注架装費減 納期短縮 効率性アップ 収益性アップ
3.塗装工程改革	①カチオン電着ライン ②仕上塗装ライン	<ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度向上 工数減 効率性アップ
4.レイアウト改革		<ul style="list-style-type: none"> 工数減 効率性アップ
5.生産設備更新 作業環境改善	本工場機械装置他	<ul style="list-style-type: none"> 操業維持 社内外注費減 効率性アップ
6.事務・研修棟建設	①事務室、食堂・更衣室他	<ul style="list-style-type: none"> 各部門近接化によるコミュニケーション増 社員満足度向上
	②ショールーム	<ul style="list-style-type: none"> 商談チャンスの増加



(4) 素材事業、不動産事業

セグメント	主な事業戦略	主な進捗
金属部門	<ul style="list-style-type: none"> 採算重視の最適生産・販売体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 「収益体質の向上」の実現に向け、適切な原料調達など最適な生産体制の構築に取り組み、国内販売増、輸出削減による収益基盤の底上げを継続して推進。
電子部門	<ul style="list-style-type: none"> 成熟製品から戦略製品へ移行 	<ul style="list-style-type: none"> 成熟製品の内、結晶製品は好調を維持、高純度金属ヒ素は軟化。 戦略製品であるコイル、窒化アルミの進展が課題。 光学部品は、システム品、回折光学素子(DOE)に引き合い増加。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>コア・コイル：車の電子制御装置などに使用</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>窒化アルミ：半導体製造装置用部品(ヒータ)や基板用材料などに使用</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>回折光学素子(DOE)：レーザー光を自由に分岐し、レーザー加工用などに使用</p> </div> </div>
化成品部門	<ul style="list-style-type: none"> 既存製品の収益拡大と、新規開発製品の早期事業化・育成 	<ul style="list-style-type: none"> 既存製品の内、亜酸化銅は船底塗料の需要減により減収。 新規開発製品である金属銅粉、高純度硫酸第二鉄水溶液の進展が課題。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>金属銅粉 用途／導電性ペースト</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高純度硫酸第二鉄水溶液 用途／鉄源補充用サプリメント</p> </div> </div>
不動産部門	<ul style="list-style-type: none"> 室町古河三井ビルディングの安定収益確保と、保有する不動産の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 室町古河三井ビルディングは、大口テナントの減床があり2020年度まで収益悪化を見込む。 2019年12月末に閉館予定の古河大阪ビルの将来構想は検討中。

『中期経営計画2019』の進捗について

【将来の見通しに関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しております。実際の事業環境・事業活動は、様々な潜在的リスク、不確定要因を含んでおり、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。

将来の見通しに影響を与え得る潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、これらの項目に限定されるものではありません。

したがって、本資料に記載されているマイルストーンとしての経営指標や予測の達成および将来の業績を、当社として確約、あるいは保証するものではありません。

なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本資料の日付以降において、本資料に記載された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の責任においてご判断いただきますようお願いいたします。

本資料は、利用者の責任でご利用ください。本資料に含まれる情報の誤りや瑕疵、マイルストーンとしての経営指標や予測数値等の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ご清聴有難うございました



 **古河機械金属株式会社**